

建築生産の視点からの論点

- 担い手：建築技術者 -

2025年06月13日

関谷哲也

◆ キーワードで考える（１）

- 固有技術と管理技術 ものづくり偏重
- 固有技術とKKD（形式知と暗黙知） マニュアル化、暗黙知・感性の衰退
- 技術倫理と一般倫理 知識・倫理をまっとうするための行動
- 日本的とグローバル 日本は世界を受け入れられるか、日本は海外でともに働けるか、海外で何を学ぶか
- フロントローディングと作りながら考える 適度な併存
- 公平（優先的地位の濫用）と公正（競争入札） 民間工事の課題
- TQMとISO（後工程はお客様と部門障壁） 設計施工の職能分離・リスクの部分最適化
- 作業所長とプロジェクトマネージャー（職制と職能） 企業人と職業人
- ものづくりと危険予知 直感的に感じる
- 事故と再発防止 ほとんどが人に起因
- 内作と外注 空洞化の発生
- 建設技術者の創造性 確認申請の厳格さ、設計と施工の分断

◆ キーワードで考える（2）

- **日本型とPM/CM** 建築生産の議論としての深耕
- **BIMとPM** モデルとWBS
- **個人とチーム** プロジェクトマネージャーが必要か
- **ガバナンスと権限委譲** 何も決められない
- **アプリユーザーと組織的DX** 個人データと組織データ
- **口論とディベート** 冷静な議論
- **経済合理性と建築文化** 名建築の解体
- **働きがいと働きやすさ** Z世代以降のもとめるもの
- **ものづくりと時間** 残業規制の中で
- **統合と機能分化** 統合的な視点の欠如
- **リアルとバーチャル** デジタルツイン：もう一つの世界
- **実践教育とオンライン教育** もう属人的な教育ができない
- **グローバルに** 国内外でのグローバル化

● 主要論点のまとめ

① 管理技術の弱体化と品質リスクの顕在化

- ✓ TQC→TQM→ISOへの移行過程で、形式主義化が進み「現場での実践的な管理技術」が失われた。
- ✓ 品質不祥事は、現場力の衰退ではなく、組織的な管理技術の不在に起因するケースが多い。

② 属人的な人材育成からの脱却

- ✓ 現場経験に基づく「勘と経験と度胸（K・K・D）」に頼る教育では限界

③ 設計者と施工者の関係性の再構築

- ✓ 相互依存・相互補完を前提に、「同一人格としての融合」と「別人格としての専門性」の議論

④ 公正性・公平性の高い制度的構造

- ✓ 文化的価値の高い社会資本と経済合理性

⑤ 2050年の建築技術者の「生きがい」像の提案

- ✓ Z世代以降にとっての仕事の意味は、「賃金」や「職位」ではなく、社会との接点・貢献・共感。
- ✓ 世界で尊敬され、信頼され、選ばれる存在となるには、単なる技術力ではなく、社会との共創性、制度対応力、倫理的自律性を持つプロフェッショナルへの進化

- 「2050年を切り拓く、魅力ある建築技術者像
“つなぐ・支える・変える”を世界で体現するプロフェッショナルへ」

1. デザインする管理者

技術を統合し、場を編み、対話を通じてプロジェクトを編集する力

2. 知と経験の翻訳者

暗黙知と形式知、ローカルとグローバル、アナログとデジタルの“翻訳者”

3. 相互補完するパートナー

設計者・施工者・地域住民・発注者との相互依存関係を築く態度

4. 社会とつながる存在

ハードを通じて、ケアやウェルビーイングなど「人間の幸せ」と接続する視点

5. 生涯を通じて学び進化する人

テクノロジー変化と倫理的課題に対応できる「学習する技術者」像
